12 (12)

【随筆】

積雪前の景色

住 吉 尚 (釧路支部)

あちこちから雪の便りが聞こえる季節ですが、ここ釧路はクリスマスに積雪がない年も珍しくはありません。 そのような訳で、積雪によって行動が制限されることが少ないので、冬期でも釣りに、鳥見にと、あちこち動き回れるのが良いですね。でも最近のガソリン価格の値上がりで、私の小遣いも全てガソリン代に消えています。と言うことで、お金の方から行動が制限されています。

とか言いながら、今日は白糠方面のタンチョウの観察 に!と出かけました。茶路川沿いでヒナ1羽を連れた家 族がふたつ、ヒナがいないペアーがふたつ、どのタンチョ ウにも足輪は見当たりません。今度は和天別川沿いを見 に行きます。夏にヒナを捕まえ足輪を付けた場所の近く まで来ると、牧草地にヒナ1羽を連れたタンチョウの家 族がいます。「オー、あのヒナか!」と思いながら双眼 鏡で足輪を確認しましたが足輪がありません。なーんだ、 あの家族ではないのか!と、独り言を言いながら更に先 へと行きます。坂を上がって行くと、下に見える牧草地 に2羽のタンチョウが見えました。でも近付くと手前の 藪が邪魔になりタンチョウが見えません。車を降りて牧 草地の縁を歩いて、見える場所まで行き、足輪を確認し よう!と、車を降りると左から道路を越えて鳥が1羽飛 んできて、今から行こうとしている牧草地の縁に生えて いるカラマツのてっぺんに止まりました。おや?私には ヒヨドリぐらいの大きさで尾が長く白黒の鳥、のように 見えたので双眼鏡で確認をしました。でもそこで見えた のはヤマセミのようでした。でも一応写真を数枚とって おきました。さてタンチョウはと、歩き出してから上を 見上げるともうその鳥はどこかへと飛んで行ってしまっ た後でした。そこのタンチョウにも足輪がないことを確 認した後、白糠の街に帰り、ラーメンを食べながら写真 を確認しました。エー!そこに写っていたのはヤマセミ ではありません。いつか見たいものだと思っていたオオ モズだったのです。オオモズは私が釧路に来て間もなく だったでしょうか、厚岸の国道沿いの電線に止まってい るのを見たのが最初です。たしか今水鳥館がある辺り だったでしょう。その後はなかなか見ることがなかった



オオモズです

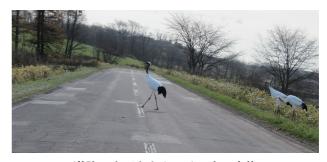
のですが、農林課に異動して最初の冬に新野の牧場で道路脇に止まっているのを2度も見ました。この時は最初にオオモズを見てから20年以上も経っていました。でもその後は見ることがなく、20年も経って今回やっと見られたというのに、カメラの中で、しかもちょっとアングルが悪い写真として再会したのです。これでは20年ぶりの再会の感動もありません。何ともドジでがっかりな再会でした。と言うことで、この時撮った写真を載せてみました。何とも間の抜けた写真ですがご勘弁を。

ところでオオモズと言う鳥ですが、ユーラシア北部で繁殖し、冬期は南へと移動する鳥です。日本ではまれな冬鳥として各地で見られるのですが、数はとても少ないようです。前述したように大きさはヒヨドリに近い大きさで、白っぽく灰色に黒い模様があります。日本で繁殖するモズは一回り小さく、カエルや大型の昆虫を食べるのですが、このオオモズは少し大きく、冬に日本に渡ってくるので昆虫やカエルはいませんから、主にネズミや小鳥を捕まえて食べているのでしょう。そのため、開けた草原や牧場のようなネズミを見つけやすい場所で見られるようですよ。

今日は午前中なら天気も良さそうです。あまり遠くない所のタンチョウの様子でも見に、と出かけました。標茶の市街地から山ひとつ越えた西側に厚生地区と言う所があります。ここのデントコーンの刈り後にタンチョウが集まっていることがあるので行ってみましたが、ぽつぽつと10羽ほどが見えるだけでした。遠くから見て、道路のすぐ脇に2羽のタンチョウがいるように見えたので行ってみたけれど見えません。Uターンして戻ろうとすると、私の車の前にタンチョウが1羽、2羽、3羽と道路上に出てきました。成鳥が2羽、幼鳥が2羽です。しかもこの幼鳥のうちの1羽には足輪が付いていました。写真を撮り拡大して見ると足輪番号は「423」と読めました。ヒナ2羽連れの家族で、1羽にだけ足輪が付いて

いるのは、標茶の市街地の南側にいる家族と磯分内の西 側にもう1家族がいます。磯分内の家族は、捕獲作業時 に見つけた時からヒナが1羽しか見えず、ヒナが1羽の 家族だと思い込んで捕獲したものです。でも南標茶の家 族は、発見時にはヒナが大変大きく、逃げ足が速いので やっと1羽だけ囲うことができて、足輪を付けたもので す。今日、私の前に出てきたヒナには「423」と言う番 号が付いていたので調べると、この個体は標茶市街地の 南東部で足輪を付けたと判りました。捕獲後は釧路川を 挟んだ西側の川沿いにいるのが確認されていました。そ して今日は山ひとつ越えた厚生地区まで来ていたのです ね。これがこの家族の大まかな行動範囲でしょう。でも このタンチョウの行動範囲はとても狭いケースだと私は 思っています。この家族は雪が積もってもこの辺りから 離れないということが今までの観察で判っています。で も毎年上手く子育てをしていますから、とても良い場所 を縄張りとしているのでしょう。それでこの場所を守る ために1年中ここから離れないようです。

さて1週間後のことです。別海町でのタンチョウの様 子を観察に行きました。この時には、計根別と養老牛の 中間付近で足輪が付いたタンチョウを見つけました。こ のタンチョウには足輪番号「346」と言う足輪が付いて いました。この足輪は2019年に標茶市街地の南側で捕獲 したもので、先日見た「423」番のお兄さんにあたるタ ンチョウです。タンチョウのヒナは雄では生まれた場所 からあまり遠くない場所で、雌は連れ合った雄に引っ張 られるからでしょうか、生まれた場所に関係なく遠い場 所で繁殖することが判っています。「346|番のタンチョ ウは生まれた場所近くで、新たな繁殖のための縄張りを 作りたかったのでしょうが、釧路川周辺にはタンチョウ のつがいが多く、ここには新たな縄張りを作ることがで きなかったので、ケネカ川水系に縄張りを作ったようで す。今回観察ができたタンチョウの家族はヒナの1羽に 足輪が付いているだけで、家族の行動が判りました。足 輪がなければ今目の前にいるタンチョウがどこから来た のかが判りませんね。数少ない足輪付きのタンチョウか らこんな事が判ってきています。そしてもうひとつ。昨 年生まれなどの極端に若いタンチョウがヒナを連れてい るのが晩秋から冬期にかけて観察されることがあります。 若くても繁殖すると思っている人もいるのですが、私の 観察では若いタンチョウが繁殖したのではなく、繁殖つ がいの片方に事故があり、成鳥が1羽になった時、すか さず押しかけ夫婦になる若い鳥がいるために、若い鳥が 繁殖したように見えることがある、と言うのが本当の姿



道路に出てきたタンチョウの家族

のようです。

今日はただのんびりと厚岸から火散布、琵琶瀬を回っ て来ました。琵琶瀬の展望台から下の湿原を見ると、ヨ シ原の中に大きな黒い動物が動いているのが見えました。 オー、クマか!と勇んで双眼鏡をのぞきます。するとそ こに写っていたのは大きな雄ジカでした。泥を浴びて全 身が真っ黒に見えたのです。角の先が白く光って、それ はそれは見事な雄ジカでした。そしてゆっくり歩いて行 く先には雌ジカが見えましたから、まだ繁殖期が続いて いるのでしょう。坂を下って琵琶瀬の水路に出ました。 この水路には両側に点々と釣り人が見えます。何が釣れ ているのかな?近くの釣り人に聞いてみると、「小型の コマイがぽつぽつ」だとか。「昨日はもう少しよかった んだ!」とのこと。こんな話をしていると、釣り人の肩 越しの水路の中に黒い丸いものが見えました。「エー! こんなところにアザラシが!」私が言うと釣り人は「も う何日も前からこの水路に居座っているんだ!」とか。 野生のアザラシは人間をあまり怖がりませんが、ここは 狭い水路です。しかも両側に釣り人がいる中です。岸壁 際では高圧洗浄機で養殖用の網を掃除している人もいま す。橋の上は工事中で沢山の作業員がいて何やら大きな 音を立てて重機も動いています。こんな中をアザラシは 橋の下の方へ行ったように見えたので、行ってみました がどこに潜ったのか見当たりません。何とか写真を撮っ て、載せたかったのですが写真にはなりませんでした。 と言うことで、今回は湿原の中の大きな雄ジカの写真を 使ってみました。この時、写真を大きく伸ばすと、ただ のシカの写真になって、私が見た遠くの湿原の中の黒い 動物、という雰囲気にはなりません。でもあまりシカが 小さいと何が写っているのかが判りません。何が写って いるのかが判らなければ意味がありませんよね。1枚の 写真でもどんな風にして載せたらよいのか、これでも結 構考えてはいるのですが難しいです。釣りをするために は何時も行くところでも、釣竿を置いてのんびり歩いて みるとまた違った風景が見えてくるものだと思いました。 14 (14)



湿原の中のエゾシカ

皆さんもいつもの場所でも違った気持ちで眺めると、ま た面白いものが見えるかもしれませんよ。

そしてまた別の日です。走古丹の砂州の先端まで行く 道路をゆっくり走っていました。左側は外洋、今日は風 が強く、曇りですから鉛色の荒波が岸に打ち寄せていま す。右側は風蓮湖ですが、今日はこちらも強い風で波立っ ています。岸辺のヨシ原近くにはオオハクチョウの群れ が寝ているのでしょうか、頭を背中にうずめて動きませ ん。道路脇の砂山にオオワシが1羽、私が近づいたので 仕方なく飛び立ちました。オジロワシは私が近づくより ずいぶん早く飛び立ち、湖の上をゆっくり飛んで行きま す。見ているとこのオジロワシが突然水面めがけて急降 下しました。すると突然水面から水しぶきが。水面は波 立っているので私からは判りませんでしたが、カモ類で もいたのでしょう。ワシが近すぎて飛び立てない時、カ モ類は水に潜ってワシの攻撃をやり過ごします。ワシは 息継ぎのため次に水面に出た所を攻撃しようと構えます。 カモはこれを判っているので、なるべく遠くまで潜って から息継ぎに出ます。今回は強風で水が濁っていたので カモの勝ちだったようで、2回ほど急降下しそうな様子 を見せましたが、諦めて飛び去りました。さて道路は行 き止まりです。来た道を引き返し始めると、先ほど見た 砂山のてっぺんに再びオオワシが止まっています。ゆっ くり近づきながら車窓ガラス越しに写真を撮ります。未 だ止まっています。もう20mを切りましたが未だ止まっ ています。もう一度パチリ。車の窓を開けると飛び立つ でしょう。10mを切りましたが未だ止まっています。 そのままワシの前をゆっくりと通り過ぎました。このオ オワシは少し羽根がボサボサしているのが気になりまし たが、羽根の色から見て成鳥です。もしかすると老鳥か もしれませんね。少し行くと同じような砂山にまたまた



オオワシをパチリ?

オオワシです。こちらは如何にも健康そのものと言う感 じで、羽根も光沢があり強風に負けずぴったりと体に付 いた精悍なオオワシです。こちらは私が近づくまでもな く、サッサと飛び立ちました。オオワシはカムチャッカ や北オホーツク沿岸、サハリン北部などで繁殖し、冬期 に北海道に飛来して冬越しをしますから、日本では冬鳥 です。私は世界中のワシを見ました。サルクイワシとも いわれるフィリピンワシは巨大ですが全身が薄い褐色で す。南米のオオギワシは思ったほど大きくはなく、薄い 灰色の頭に濃い灰色をした翼の見事なワシでした。北米 のハクトウワシはオジロワシほどの大きさで、オオワシ ほどは大きくありません。大きさ、美しさでオオワシが 最高だと思いました。体の大きさではアンデスコンドル やカリフォルニアコンドルがオオワシ以上でしょう。で もあの見事なオレンジ色の大きな嘴が示すハンターとし ての精悍さはコンドルにはありません。こんな見事なワ シがここ釧路ではさほど珍しくはないほど見られるんで すから、世界的にはすごい場所なんですよ!

目飛出支払額驚	或魚注目透明眼 或魚注目透明眼	[七言絶句]	格差社会今年の漢字金と書き[五七五]
(札幌市 頑黒和尚) 警戒第六波感染	大声大笑飲食店 特中人沸如湧泉	麻痺	字金と書き